

一般質問

一般質問
竹森 衛
(日本共産党)

不登校対策

定例会では、提案された諸議案に関係なく、議員自身が議長に通告し、市長及び関係理事者に質問する日(一般質問日)を設けています。今定例会は、9月20日、21日に7人の議員が活発な質問を展開しました。ここにその一部を掲載します。詳細は、市議会ホームページでご覧いただけますので、是非活用ください。

会派名簿

公明党(4名)
大北かずすけ・亀甲義明
森下みや子・成谷文彦
日本共産党(2名)
竹森 衛・西川正克
至誠会(2名)
小川和俊・奥田 寛

政 志 会(2名)
たけだやすひこ・松木雅徳
自由民主党(2名)
細川佳秀・奥田英人
新星榎原(3名)
廣井一隆・大保由香子
田中かずとも

いずれの会派にも所属しない議員(7名)
杉井康夫・竹田きよし
榎本利明・高橋圭一
河合 正・榎尾幸雄
松尾高英
(平成28年9月20日現在)

問 通室していない児童生徒の希望や、保護者の意見等を集約しているのか、現状で満足しているのか、改善は。

答 まず「虹の広場」に通室しているが、通室していない方の意見は直接聞いていない。希望や意見は本人、保護者が通室するか決定する際に把握している。また、全体的に直接関わっている担任等から意見を聞いている。今後は、パンフレット等の活用や、担任等から一層の周知を図りたい。生徒が入室・活動する部屋は1部屋であるが、個別相談や定期テストでは4階の教育委員会会議室を利用している。集団活動、個別対応できる部屋があれば、スケジュールが立てやすくなり、子どもたちも安心できると思う。

問 適応指導教室「虹の広場」の通室数が、全体の不登校生徒の10%程度である理由は。

答 不登校生徒全てが全くの不登校ではなく、多くの生徒が部分的に登校している。別室や部分的に登校できる生徒は、学校で対応することで教室に戻れるようになっていくと考える。それでも改善されない場合は、担任から「虹の広場」への通室を勧められているが、本人が行く気にならない場合や、仕事を持つ保護者が多く、保護者が送迎できない場合もある。

問 通室していかない児童生徒の今後の取り組みは。

答 当面は現在の形で対応したいが、当該場所は人通りや、送迎も非常に少なく、不登校の児童生徒は通いやすい。今後、八木駅南の分庁舎が完成し、各課の配置見直しの中で、検討、対応したい。

問 分庁舎ができるまで辛抱しろということか。市の教育大綱の基本目標を今後どのように実施していくのか。

答 個別の案件は別の部屋が望ましいと考える。ほとんどの場合、事前にわかるので、4階の部屋を押さえることは可能である。急な場合は、できるだけだけそういう環境を保てるように、子どもたちの立場、気持ちを考えて対応したい。

問 大和高田市では、卒業した生徒に対して、必ず交流会を開いて高校へ行っているの

か確認しているが本市は。

答 交流会等は、今のところやっていないが、進路の把握や、指導員、先生との交流の中で卒業生が来ることもある。今後、交流会等は検討したい。

問 指導員の4つの取り組み、各小学校の指導員の配置体制、勤務時間の改善は。

答 まず、相談に乗り助言を行うため家庭訪問をして、保護者や本人と話をするなど、対応。2つ目、授業がある担任に代わり、行き渋りの児童生徒の家へ迎えに行く。3つ目、子どもへの学習指導、悩みの相談、助言を行うために、クラスに入って指導補助を行い、途切れることなく様子を見守る。4つ目、生徒指導上、緊急に担任が対応する場合、臨機応変に担任に代わり授業を行う。配置状況は、各小中学校1名ずつ。数人で時間を

分け合っている学校もあるが、実情により校長が時間割を決めて勤務している。このほか、クラスサポーターなどを配置している。今年度からは、こころのケアルームカウンセラーを市内4小学校にも配置し、こころのケアルームコーディネーターも配置するなど、さまざまな観点から今後も対応したい。

問 親の会との連携や親とはどう話し合っていくのか。どうすれば来られない子が来やすい場所になるのか子どもから聞く意思があるのか。

答 不登校の親の会は「虹の広場」にはない。仕事を持つ保護者が多く、平日に集まるのが難しい。送迎時に保護者へ子どもの様子を指導員等が話したり、学期末に三者面談の機会を設定したりし、今後の支援の共通理解をしながら